

市電散水車 25 号車輛 1 輛

市電散水車 25 号車輛

しでんさんすいしゃ 25 ごうしゃりょう

分野／部門

有形文化財／歴史資料

所有者

大阪市高速電気軌道株式会社

所在地

大阪市住之江区緑木 1

紹介



大阪市電の車輛には、客車のほかに貨車、散水車があった。散水車は、未舗装道路が多かった昭和初期まで、市電運行時の砂塵飛散を防止するために運転された車輛である。

明治 44 年(1911)から昭和 7 年(1932)の間は通年散水が実施され、それ以降は散水自動車の導入などにより散水期間を短縮していき、昭和 13 年(1938)に全廃された。散水車が最初に登場したのは明治 44 年 8 月で、6 輛が導入された。容量約 8 立方メートル入りの丸型水槽を備え、止水弁の上下動によって放水した。このタイプの散水車は、大正 5 年(1916)までさらに 14 輛が製造された。大正 14 年(1925)には、営業路線の延長に伴い、新たに 5 輛が製造された。昭和 4 年(1929)には、大型ボギー散水車を 5 輛投入した。この車輛は、容量 12 立方メートル入りの角型水槽を持ち、渦巻きポンプと圧力槽を備え、制水弁によって散水量を調整できるものであった。

現存する散水車 25 号は、大正 14 年 4 月、藤永田造船所で製造されたものである。丸型水槽を搭載する単車で、全長 5,660mm、車幅 1,981mm、高さ 3,201mm、自重 9.70t。台車はブリル 21E 型で、主電動機は GE 製 25 馬力 2 台である。水槽の積載容量は 8.12 立方メートル(45 石)で、散水管は各運転台右側に取り付けられている。

参考文献

大阪市交通局編『大阪市交通局五十年史』(大阪市交通局 1953)

大阪市交通局編『大阪市交通局七十五年史』(大阪市交通局 1980)

大阪市電編集委員会編『大阪市電－路面電車 66 年の記録』(鉄道史資料保存会 1980)